



「農の暮らし」(30)

日本一小さな專業農家 風来

ふうらい

幸せな農家を作る「ミニマム主義」を提唱・実践し、様々なメディアや講演会に登場する“日本一小さな專業農家”風来の源さん取材しました。(高崎 渉)



西田栄喜さん(43歳)通称“源さん”

石川県能美市、日本海を望む海岸線から1 km ほど内陸に、自他共に認める“日本一小さな專業農家”風来があります。多くの農家が100反以上の農地を持っている中、風来では、余裕があって幸せな農家になる方法として考案した「ミニマム主義」を実践し、わずか3反の農地で5人家族の生計を立てています。農業の新たな可能性を提案する風来の事業モデルと、その根底にある哲学を伺いました。

川下からの発想

風来の小さな畑では、畝ごとに異なる野菜を育てており、中には同じ場所に数種類の野菜が混植された畝を作るなどの自由な発想で、約50種類の多彩な作物を育てています。源さんいわく、「自然界なら一ヶ所にいろんな植物が生えているのは当然。収穫時の選別の手間を考えると、これも小規模だからできる強みです」とのこと。また、農地に隣接した自宅兼店舗「風来」では、

収穫した作物や加工品、育てた苗などを販売しており、特に白菜からこだわっ



た自家製キムチはすぐに売り切れる人気商品になっています。野菜を作ってからキムチへの製品化を考えるのではなく、製品を意識して野菜を作るという「川下からの発想」によって、「白菜の種から語れるキムチ屋」という、農家ならではの付加価値を生んでいます。



オーストラリアでの価値観の変化

20代の頃に訪れたオーストラリアの農家で価値観の大きな変化がありました。向こうでは、お父さんが当然のように車や家を自分で直すのを目の当たりにし、自分や日本人の脆弱さを思い知ると共に、稼ぎだけではない「真の生活力」を意識するようになりました。また、100年変わらない農村風景を誇り、プライドを持って取り組む農家を見て、兼業農家に生まれながら、家業に自信を持てていなかった自分に気づきました。その後、農家への転身を遂げると同時期に高木さんの講演を聞き、『地球村』の活動に加わるなど、環境を意識した生活にシフトしました。

「ミニマム主義」とは？

源さんは、農家になる以前にホテルの支配人をしてきた経験から、毎年、「前年対比」での成長を求められる現代の経済システムに疑問を持つようになりました。政府の農業政策では農地の拡大が補助金の条件となっていますが、本来、自然界に右肩上がりはなく、十分な量の中での循環で成り立っています。そこで自分のとって必要以上の収入を求めない「ミニマム主義」の考えに行きつきました。

ミニマム主義では、事業の成果を前年対比ではなく「目標基準金額」を元に考えます。そのプラスマイナス5%以内に収めることを目標として、足りなくて反省するのはもちろんのこと、超えても反省することで無理な事業拡大を求めなくなります。必要以上の収益拡大を意識しないので、大口客も小口客も分け隔てなく接するなど、時間的にも精神的にも様々な面で余裕を持った幸せな農家になれるのです。



“いのち的”にどうよ？

昨年3月11日の大震災と原発事故をきっかけとして、多くの気付きがありました。

「事故が起きてすぐに地域の仲間と集まったところ、多かれ少なかれ、みんな仕事をやる気になれない状態になっていました。農家は、半年後もこの土地で汚染されていない安全な野菜が作れると信じられるからこそ今頑張れます。でも、そんな状況の中で、ただひたむきに生きる野菜たちの姿から勇気をもらいました。」また、源さんは、様々なメディアで飛び交う原発の是非を巡る議論に対して、根本的な食い違いを指摘します。

「推進派は経済、反対派は命という、別々のゴールを設定しているので話が噛み合わないんです。何よりお金中心の価値観を変えないと。そして、『“いのち的”にどうよ？』という視点を持てば、何が大切かは明確です。宝石、食糧、空気、価値を“いのち的に”考えると大切なものの順番は逆転します。そこで農は価値観を変えるのに大きな役割を果たします。」

農は価値観を変える扉

「農を通して自然と向き合った時に湧いてくる、かなわないものを受け入れるという感覚は、お金中心の価値観を変えるのに大きな役割を果たします。そして、

自給自足や物々交換を始めると、どんどんお金から離れていくんです。この社会へのアプローチは、『地球村』の提唱する「非対立」だとも言えますね。」

また、源さんは、異なる価値観の例として、2種類の贅沢を紹介します。

「1つは、お金を出して買ったものを楽しむ贅沢。もう1つは、自分でこだわり抜いて作ったものを楽しむ贅沢。そして、お金で買った贅沢は1人占めしたくなりますが、自分で作って楽しむ贅沢は他の人にも分かち合いたくなるんです。その意味で、自分で育てて分かち合える農業は幸せに一番近い産業かもしれません。」

農家が語り始める時代に

源さんは、地域で「有機農業研究会」を主宰し、農家仲間や新規就農希望者など15人ほどで勉強会を開いています。

そこで学ぶものは、農法に留まらず、毎回3分間のスピーチが行われています。そこで発信力を鍛え、自分の農へのこだわりを語れる農家を増やすことも源さんの大きな目標のひとつです。

「社会を変えるには高木さんのように1人で100歩進む人は必要不可欠。そして、その次に100人が1歩進んでいくのが大切だと思います。特に農家は生活スタイルそのもので社会に提案ができますし、インターネットがそれを助けてくれる時代になりました。社会のモノサシが“命”の価値観になった時、最先端を農家が走っている、そんなビジョンを持って“農”の良さを広げて行きたいと思っています。」

畑の旬をお届けします！

無農薬野菜 **風来**

Tel&Fax 0761-55-4091

Mail gensan@poem.ocn.ne.jp

営業時間 9:30~15:00 日・祝 休業

〒929-0113 石川県能美市大成町 1-75

HP(通販): <http://www.fuurai.jp/>

